

『いじめ』

○活動のねらい

いじめを受けた生徒やその生徒の保護者の気持ちに寄り添って考えることの大切さに気付く

○所要時間 40分

○トレーニングを受ける人数 3名～多数

活動内容 《 》は領域、【 】はスキル、『 』は活動名	時間 (分)	トレーニング上の留意点 フィードバックの視点
1 《生徒指導》 【保護者・生徒へのかかわり事例演習】 『いじめ』 ①事例を読む ②各自読んで感じたことをまとめる ③②をもとに近くの人に伝え合う	20	・資料の配布 ①コメント等、補足をしない。 ②ワークシートの配布。問題があると感じる番号に○を付けてもらう。コメント等、補足をしない。 ③あらゆる場面をフィードバック時に賞賛するために言動を共感的に観察する ④すべての番号に最低一つは問題があることを告げる
④エクササイズシェアリング ・各自感じたこと・話し合いの様子を発表	10	・お互いの気付きを認め合っている
2 本プログラムを振り返って	5	フィードバックの視点 ・いじめを受けた生徒やその生徒の保護者の気持ちに寄り添って考えることの大切さに気付く
パーソナルプランニング	5	※パーソナルプランニング例 ・生徒の一瞬の表情を見逃さないためにも、職員相互で言葉を掛け合うようように努めていきます。まずは、自分が率先して

パーソナルプランニング後の職員へのかかわりの具体例

サポーターが行ったこと	サポーターが感じたことやサポートを受けた職員の様子
部活動の練習試合中、うちの選手がファールをされたので、応援していた生徒が声をそろえて「何やってんの～」とヤジをとばしていた。生徒に「応援したい気持ちは分かるけど、相手だってわざとやったわけではないから、その言動はどうか？」と考えさせたという話を生徒から聞いた。その顧問にチャンス相談を行い、そのときの気持ちを聞いた。	・サポーター：「どうして今まで注意しなかった生徒の言動に気づけたんですか？」 ・顧問：「『いじめ』に発展するかもしれない生徒の資質を感じた時には、注意しようと、パーソナルプランニングしたからです」 ・サ：「先生のとった行動に対して、選手から、『なんかすがすがしい試合だった』とも聞いています」 ・顧：「そう感じてくれる生徒であふれて欲しいです」